高津区おはなしアーカイブ

●関口　隆雄（せきぐち　たかお）さん

昭和１１年生まれ　７９歳
川崎市高津区向ヶ丘在住

◆６人兄弟の末っ子

向丘村（現：高津区向ヶ丘）に６人兄弟の末っ子に生まれました。男４人、女２人で、長男、長女、次男、３男、次女、そして私です。長男と３男はすでに亡くなり、上の姉さんは９０歳で施設に入っています。家は農家です。

生まれた家は、今も我が家の坂の下にあり、そこは兄（次男）が住んでいます。
ここは、２０年ほど前の宅地造成で、坂の下から移住をした家です。兄は３０年ほど前まで農業をしていましたが、今はやめ、倅が植木をやっています。

◆小学校はじゃり道を集団登校

小学校は向丘小学校です。近所の友達と集団登校で、じゃり道を３０分以上歩きした。高下駄だったので、雨や雪の日は鼻緒がよく切れて困りました。各学年１クラスで、１クラスは２０～３０名くらいだったと思います。

クラスにはみんなを統率するガキ大将がいました。ガキ大将のまわりには頭のいい子が３人くらいいたので、まわりを固めて統率がとれていたんですね。

◆市内中学校駅伝で向中２位

中学校は向中（むかちゅう）(向丘中)です。６２部隊の払い下げの建物を校舎に使っていて、冬はとても寒かったことを覚えています。

体育と国語が好きでした。足が速かったので、中学２年の時に市内中学校のマラソン大会に出て２位になりました。コースは市役所前から登戸の榎戸までを往復でした。それまで御幸中、大師中、高津中といった中学校が上位の常連校。向中は上位に入ったことがなかったので、２位になった時、「向中ってどこにあるの」という声がたくさんあがったんです。この時から「川崎市に向中あり」となってとても嬉しかったです。７人で７区間を走り、賞状をもらったことをよく覚えています。裏がゴムのマラソン足袋で走り、ユニフォームは、自分たちで下着のランニングをピンクとか色に染めて作りました。箱根駅伝の経験のある先

生が来て、フォームから教えてくれて、意識も高めてくれたことで強くなったと思います。指導者ってとても大切だと思いました。雪が降っても一生懸命練習したことをよく覚えています。

当時、中学校には手を出すような癖のある先生もいましたが、家に帰って親にそのことを話すと、先生から怒られることをする自分が親から怒られました。そういう時代でした。

◆学校から帰ると畑仕事

このあたりは畑が広がり、みんな農家でした。学校から帰ると、畑の草むしりが子どもの仕事で、小さい頃は米や麦も作っていた記憶がありますが、トマト、キュウリ、小松菜などの蔬菜類が中心の農家でした。おやつは、お菓子なんかなくて、母が蒸してくれたサツマイモ、カボチャ、ジャガイモなどがほとんど。秋には柿をとってよく食べました。

でも、平瀬川に鉄クズが落ちていて、拾って回収業者のおじさんに売ると１銭になったんですね。当時、神木に駄菓子屋さんが１軒あって、そこで飴玉、ニッキなどを買った思い出があります。小学校２年生の頃だったかな。こういうことは、上級生が鉄クズを拾うところからすべて教えてくれました。

他には風呂焚きが男の子の仕事でした。五右衛門風呂に、井戸から水を汲むのと、近くの山に焚き木を採りにも行きました。雨の日には、兄が縄ないをして俵などを編んでいたことを覚えています。家の周りの掃除なども男の子の仕事でした。

◆夏は平瀬川で１日水浴び

上作延に平瀬川の堰が３つあって、夏はそこで１日中遊びました。身体を焼いたり、泳いだり、泳ぎはそこで覚えました。フナ、ハヤ、ヤマメなどもいて、よく捕って帰ると、夜に母が焼いてくれて食べました。中学生になって、先生に多摩川に連れていってもらった時、平瀬川と比べ「広～い」と雄大さに驚いたことを覚えています。多摩川でもハヤを釣りましたね。釣竿は、近くの竹やぶに行って竹を切って自分たちで作り、エサはうどん粉を練って丸めたものでした。

夏以外の季節の子どもの遊びは、駒まわし、かくれんぼ、小学校５～６年生頃には野球が流行っていましたね。

◆Ｂ２９を見に行く-戦争のこと-

６２部隊の演習場が近かったので、それをめがけてＢ２９が飛んでくるのを、兄とよく見に行っていました。焼夷弾は不発弾も多く、鉄クズや鉄板などガラクタが落ちてきて、兵士がそれを集めに来て２４６に積んでありました。ガラクタの中には平らな石もあって、拾って漬物石に使っていた記憶があります。演習もよく見に行ってい

ました。

我が家は戦火を免れ焼けることはなかったですが、近所で３軒ほど戦火にあいました。みんなで防空壕を掘って、空襲の時はそこに逃げていました。冬には野菜の貯蔵庫でもありましたが。

向丘国民小学校で９歳の時に終戦をむかえ、しばらくしてから兄と焼野原の東京を見に行ったことを覚えています。

◆肥やしを取りに歩いて目黒まで

畑にまく肥やし（人間の糞尿）は、目黒の五本木まで上の兄とリヤカーを引いてよく取りに行きました。当時の二子橋は木造で、片道２時間くらいかかったと思いますね。リヤカーに６、７本の樽を積んで帰ってきて、家の坂の下につくと家の人を呼びに行きました。これは１日仕事で、元々足が速く、中学生の頃に鍛えていたからできたんだと思います。

◆中学校卒業後、仕事に就く

中学校卒業後、家の農業も手伝いながら、目黒区祐天寺にある親戚のお米屋さん（上目黒配給所）で３年働きました。当時はお米を買うための米穀通帳があり、各家にお米を入れる袋とお金をもらいに行き、お米を袋に詰めて自転車で配達することが仕事でした。その後、日本通信で５年働き、フジサッシに入りました。そこで覚えた門扉関連の仕事が今も仕事として続いています。フジサッシでは社員で行ったバス旅行が楽しかったですね。その後、新城にある石井建材という会社に移り、そこで定年を迎えました。その時のつながりで、海老名で会社を立ち上げた友人がいて、その会社の門扉の仕事を今でも多い時は月に５～６回、少ない時は１～２回やっています。海老名は遠く、仕事がある日は５時起きです。

◆宅地化で町名がかわった

ここは元々は向ヶ丘でなく、上作延という町名で、今も自分の意識は上作延です。町名が変わる時に町会にかかわっていたんですが、今も自分ではその理由をきっちりと説明できないです。区制が引かれる時に、当時、菅生、平、長尾、上作延の４地区が向丘村と言われていましたが、上作延以外は、「向丘」という町名を残さないことになり、上作延だけが残りましたが、このあたりはよくわかりません。ただ当時、農地から宅地化が進み、新しく移住してきた人たちが、住宅地として町名は「向ケ丘の方がイメージがいい。上作延はいや」と強く言っていたことはよく覚えています。

◆娯楽は溝口、そして日劇へも

このあたりは関本屋さんという味噌、醤油など食料品店だけで、買い物、娯楽は溝口でした。農家は雨が降ると仕事ができないので、２つあった映画館によく行きました。戦艦大和、高倉健のヤクザ映画などが

好きでしたね。芝居小屋もあって、そこにも行きました。働き始めてからは日劇ウエスタンカーニバルに行くようになり、今となっては思い出深いです。

家にテレビが来たのは、東京オリンピック（１９６４年）の前々年くらいだったかな。アメリカのケネディ大統領暗殺事件をテレビで見たことをよく覚えています。

◆秋祭りは９月２５日

昔の秋祭りは９月２５日、平日・休日に関係なく決まっていました。雨天決行で、この時期は台風もよく来るので、祭りの日が雨降りだったこともありました。

大人神輿と子ども神輿があって、回った先々の家で煮物など手作りの料理をふるまってもらえるので、最後はもうお腹いっぱいでした。祭りには素人芝居の一座やドサ回りも来て、楽しかったです。

今はお神輿の担ぎ手がいなくて、よその地域からかつぎ手を借りてくる、そんな仕組みになっています。

◆年寄りにやさしい町に

今は、老人会の会長をしていて、妻は民生委員をしています。ここは、今となっては移住者が多い地域になりましたが、昔は農家が点々としていたので、どこの家の誰かすぐに分かりました。

今は世代交代もありますが、町内会などで会って顔と名前が分かっても、町のどこに住んでいるかは分からない、そんな関係になっていますね。

同級生は９人いましたが、今残っているのは３人だけ。寂しくなりました。

近くの障害者福祉施設「あかしあ園」で木の剪定をしたり、畑では、夏はゴーヤ、春はチューリップを植えて、みんなで楽しんでいます。先日、ダイコンをまいてきました。こんなボランティアが今の趣味かなぁ。

この町は年寄りが多くなってきました。日常生活において、この坂がネックになっているので、ここを解決して、年寄りにやさしい町になって欲しいと願っています。

（平成２７年１０月１日取材）